

システム工学研究科

履修要項

2026

令和8年度

近畿大学大学院

この履修要項は令和8年度システム工学研究科入学生に適用されます。

履修要項は再配付しませんので、修了まで大切に保管してください。

履修要項の内容は更新される場合があります。

最新情報は大学ホームページをご確認ください。



[https://www.kindai.ac.jp/engineering/research-and-education/curriculum/course\\_guidance/](https://www.kindai.ac.jp/engineering/research-and-education/curriculum/course_guidance/)

## 目次

|  |    |
|--|----|
| 1. 学年暦 .....                                   | 1  |
| 2. 近畿大学教育方針 .....                              | 2  |
| 3. 大学院システム工学研究科教育方針                            |    |
| 【ディプロマポリシー】（学位授与の方針） .....                     | 2  |
| 【カリキュラムポリシー】（教育課程編成・実施の方針） .....               | 3  |
| 4. 大学院の特色と教育目標 .....                           | 4  |
| 5. 入学から学位授与までの過程                               |    |
| (1) 修了要件 .....                                 | 8  |
| (2) 修学のガイドライン（博士前期課程） .....                    | 9  |
| (3) 修学のガイドライン（博士後期課程） .....                    | 10 |
| (様式) 研究指導計画書 .....                             | 11 |
| 6. 履修  |    |
| (1) 履修方法・授業科目・担当教員（博士前期課程） .....               | 12 |
| (2) 履修方法・授業科目・担当教員（博士後期課程） .....               | 16 |
| 7. 学位論文審査                                      |    |
| (1) 学位論文審査基準 .....                             | 18 |
| (2) 修士学位論文審査を受けるための条件 .....                    | 23 |
| (3) APRIN e-ラーニングプログラム（CITI Japan） .....       | 23 |
| (4) iThenticate（学術論文剽窃検知オンラインツール）の導入 .....     | 23 |
| 8. 学識を教授するために必要な能力を培うための機会（プレFD）【博士後期課程】 ..... | 23 |
| 9. 大学院学長賞・大学院部長賞・システム工学研究科長賞 .....             | 24 |
| 10. 近畿大学大学院と広島大学大学院の学生交流（研究指導及び単位互換） .....     | 25 |
| 11. システム工学研究科と（国研）産業技術総合研究所との連携大学院 .....       | 25 |
| 12. 教育職員免許状（中学校・高等学校専修）の資格取得 .....             | 25 |
| 13. 近畿大学大学院生として修得すべき英語力 .....                  | 26 |
| 14. 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取り扱い .....   | 27 |
| 15. 経済的支援（奨学金・教育ローン） .....                     | 28 |
| 役職教員一覧 .....                                   | 30 |
| 大学院に関する情報閲覧のご案内 .....                          | 31 |



## 1. 令和8年度学年暦

|                   | 行事予定                |
|-------------------|---------------------|
| 4月1日(水)           | 令和8年度前期学期始め         |
| 4月2日(木)           | 入学式                 |
| 4月3日(金)           | ガイダンス・T A説明会・定期健康診断 |
| 4月7日(火)           | 前期授業開始              |
| 7月23日(木)～7月30日(木) | 前期定期試験              |
| 7月31日(金)～9月17日(木) | 夏期休暇                |
| 9月14日(月)          | 後期学期始め              |
| 9月24日(木)          | 後期授業開始              |
| 10月23日(金)         | 休講日                 |
| 10月24日(土)         | 大学祭                 |
| 11月5日(木)          | 創立記念日               |
| 12月25日(金)～1月5日(火) | 冬期休暇                |
| 1月15日(金)          | 休講日                 |
| 1月下旬              | 公聴会(各コースにて開催)       |
| 1月22日(金)～1月30日(土) | 後期定期試験              |
| 3月11日(木)(予定)      | 令和8年度学位記授与式         |
| 3月31日(水)          | 令和8年度終了             |

行事等の予定は変更されることがあります。

## 2. 近畿大学教育方針

- ・建学の精神 「実学教育」と「人格の陶冶<sup>とうや</sup>」
- ・教育の目的 人に愛される人、信頼される人、尊敬される人を育成することにある。

本学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的として掲げてきました。この「建学の精神」と「教育の目的」は、知識基盤社会へ転換しようとする 21 世紀の日本において、いっそう必要とされる理念であると自負します。

本学が、総合大学として各学部の特色を生かしながら、共に手を携えて目指そうとしているのは、「実学教育」と「人格の陶冶」の融合です。真の「実学」とは、必ずしも直接的な有用性を志向するだけでなく、その事柄の意味を学び取ることを含みます。現実に立脚しつつも、歴史的展望をもち、地に足をつけて、しなやかな批判精神やチャレンジ精神を発揮できる、創造性豊かな人格の陶冶を志向するものです。「自主独往の気概に満ち」、生涯にわたって自己の向上に励み、社会を支える高い志をもつことが「人に愛され、信頼され、尊敬される」ことにつながります。このような学生を社会に送り出すことが、これからの時代に、本学が目指す社会的使命であります。

## 3. システム工学研究科教育方針

### 【ディプロマポリシー】（学位授与の方針）

システム工学研究科では、近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」に即し、人間と自然が共存できる持続可能な社会の構築に貢献できる能力や学識を持つ研究者や高度専門職業人としての技術者の育成を目的としています。

その目的を達成するため、修士（工学）及び博士（工学）の学位に対して以下の学修目標を定めています。

#### <博士前期課程>

- 1 複雑化する技術課題に対して総合的な視点から多様な解決策を提言できる能力を身につけていること（課題解決力と総合力）。
- 2 専攻分野における高度な専門性をもつ職業等に必要能力を身につけていること（高度専門性）。
- 3 工学分野の課題に、探求心と責任感及び倫理観をもって果敢にチャレンジし、国際的に活躍できる研究能力と指導力を身につけていること（グローバル活動力と人間性）。

#### <博士後期課程>

- 1 主体的に研究活動を展開することにより、深奥を究める探求力と学際分野の課題を解決するに至る道筋を提案できる能力を身につけていること（課題解決力と総合力）。
- 2 学術的意義・新規性・創造性に優れた研究を遂行でき、当該分野での学術研究の発展に大きく貢献し、応用的価値を与える能力を身につけていること（高度専門性）。
- 3 自立して研究を推進する能力、国内外の当該分野でリーダーシップをとる高度な幅広い専門知識と崇高な工学的倫理性を身につけていること（グローバル活動力と人間性）。

以上の資質・能力を有するとともに、所定の年限在学し、システム工学研究科のカリキュラムポリシーに沿って設定された課程プログラムの授業科目を履修して、厳格な成績評価のもとに各課程が求める能力に関する所定の単位を修得し、かつ本研究科が行う論文の審査及び試験に合格することによって、目標として掲げた能力や学識を修めたことが

認められる人に、博士前期課程では修士（工学）、博士後期課程では博士（工学）の学位を授与します。論文の審査は、別途定めた学位論文審査基準に沿って実施します。

### 【カリキュラムポリシー】（教育課程編成・実施の方針）

本研究科の教育課程は、ディプロマポリシーに即して、深化して細分化される科学技術を総合的にとらえるための能力と専門分野の高度な知識と技術の獲得と、国際的に通用するコミュニケーション能力および倫理観を涵養するカリキュラムで構成されています。なお、ディプロマポリシーに学修成果として定めた資質・能力と、カリキュラムとの連関は、カリキュラムマップで示しています。また、各科目の学修成果は、シラバスの項目〔成績評価方法および基準〕で定期試験、レポート、授業中の小テスト、プレゼンテーション、質疑応答、アクティブラーニング後のルーブリック評価などで評価することを示し、その評価方法についても明示しています。

#### ＜博士前期課程＞

博士前期課程では、学士課程で得られた専門分野の知識をさらに発展させた専門科目 6 分野に加えて、基礎数理科学分野、国際・キャリア分野（技術者倫理）の共通基礎科目 2 分野、コース基礎分野、特修分野の横断科目 2 分野の10分野を編成して、分野横断的な教育・研究の指導を行います。

- 1 所属するコースの専門科目に加え、国際・キャリア分野（技術者倫理）及び所属するコース以外のコース基礎分野あるいは特修分野の科目を履修して、従来の細分化された学問領域を超えた科学技術の総合力の獲得を図るプログラムを提供します。
- 2 特別研究を通じて解析手法の修得やプレゼンテーション能力の向上を図り、学会等での研究成果発表の支援や、修士論文作成の指導を行います。

#### ＜博士後期課程＞

博士後期課程では、特殊研究を通じて専門分野についての体系的知識や技術をさらに深めるとともに、主体的に研究活動を展開することにより、深奥を究める探究力と学際分野の課題を解決するに至る道筋を提案できる力を育成します。

- 1 博士前期課程での専門分野についての体系的知識や技術をさらに深める「特殊研究」を行います。
- 2 複数の領域を理解し、その知識を活用することにより、人間と自然が共存できる社会の構築に必要な多様な課題に立ち向かう能力の向上の育成に努めます。
- 3 自立して解決策を国際的レベルで提言できる能力へと発展・育成されるように、博士論文の研究指導を行います。

システム工学研究科の教育方針は更新される可能性があります。最新のポリシーについては、以下のホームページをご確認ください。

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/graduate/engineering/>



## 4. 大学院の特色と教育目標

### 【システム工学研究科の教育・研究の目的について】

システム工学研究科の教育・研究の目的は、研究者や高度専門職業人としての技術者の育成にあります。

基礎的な原理の理解や複雑な現象の解明、あるいは既存の技術の修得のもと、広い視野に立った工学の知識・技術・方法を身につけ、人間と自然が共存できる社会の構築に寄与することを教育・研究の目標としています。特に、実益的な技術との連結を重視しながら、多分野にわたる広いシステムの思考に基づいて、ますます複雑化する技術課題に、多様な解決策を提言できる研究者や高度専門職業人としての技術者の育成を目指しています。また、人間の快適な生活や福祉に役立つさまざまな製品の開発や生産技術に関して、基礎工学から専門技術までを包含した教育・研究を幅広く展開しています。複雑化を増している工学分野の様々な課題に、広い視野と探究心及び倫理観と先進的な指導力をもって果敢にチャレンジし、国際社会及び地域社会で活躍できる人材を育成します。

具体的な人材像は以下のとおりです。

- ① 高度な工学的専門的知識と研究・調査能力を有する研究者
- ② 高度専門職業人として企業の開発・設計・製造・品質管理等の分野で活躍する技術者
- ③ 高度な工学的専門的知識とコミュニケーション能力を有する企業人・教員・公務員

### 【システム工学研究科のカリキュラム編成上の特色】

システム工学研究科は、博士前期課程と博士後期課程からなる一専攻の研究科です。これまでの大学院の教育・研究が科学技術を細分化し、深化させる方向であったのに対し、本研究科は、分野横断的な総合力を備えて課題解決に取り組むことができる高度専門技術の獲得を目指すことを特色とした、新たな発想のカリキュラムを編成しています。

博士前期課程では、学士課程に対応した、「生物化学コース」、「機械工学コース」、「ロボティクスコース」、「電子情報工学コース」、「情報コース」、「建築コース」の6つの学問分野についてカリキュラムを組み、高度専門的な教育・研究体制を採用しております。また、専門科目に加え、「基礎数理科学」分野では基礎から応用までの数学力を、「国際・キャリア」分野では倫理性及び英語伝達力を修得し、所属するコース以外の「コース基礎」分野あるいは工学的実践である「特修」分野を履修して、学問分野を越えた総合力を修得する教育プログラムとしています。「特修」分野では、他大学院、公設あるいは民間の研究機関での研修やプロジェクトへの参加を通して、実学教育の充実を図っています。博士後期課程では「特殊研究」を行って、専門分野についての体系的知識や技術をさらに深めるとともに、主体的に研究活動を展開することにより、深奥を究める探究力と学際分野の課題を解決するに至る道筋を提案できる力を育成します。

### 【システム工学研究科システム工学専攻のコースごとの教育・研究目標とカリキュラム編成上の特色】

#### 生物化学コースの教育・研究目標

生物化学コースは、探求・研究能力を高め、社会で即戦力となる、研究者及び高度専門職業人としての技術者を育成します。

本コースの学修・教育における到達目標は以下の4項目です。

- ① 自立的研究能力の強化
- ② 化学/生物工学関連領域の幅広い理論的知識の修得
- ③ 広い視野とシステム思考による問題解決能力の養成
- ④ 国際性とコミュニケーション能力の養成

## 生物化学コースのカリキュラム編成上の特色

それぞれ異なる分野としてその学術性や技術が発展してきた生物工学と化学は相互に関連しながら、融合した新しい分野を形成しています。「バイオテクノロジー」を利用すると同時に、化学的に生物の特徴を模倣（バイオミメティクス）することで生体に優しい医療（バイオコンパティビリティ）への利用等が期待されます。また、「バイオマス」の新しい利用法の創製により環境に優しい資源及び材料の開発が実現され、さらに生物の「ゲノム」情報を他の工学分野に活用することで、生活をより快適なものにできると考えられます。様々な事象を、生物工学あるいは化学といった独自の分野のみから考えていると、最適な解決や応用には至りません。本コースでは、生物工学と化学が融合する分野横断的な領域における教育・研究の指導に必要な下記カリキュラムを設置しています。

1. 4専修科目群から1つの専修科目を選択し、さらに関連する科目を選択して、専修分野の学術研究における課題設定と解決能力の向上を進めます。また、外部講師らにより最新の生物工学と化学、そしてそれらの融合分野のトピックスとともに学術背景を学修し、工学的な意義や技術の成り立ちを学術的に考察できる能力を養成します。また、上記の学修に必要な基礎知識や関連技術を得るため、2つの共通科目から必要に応じた選択により学修支援されます。
2. 専修科目の担当教員の指導による最先端の研究を通して、自立した研究者として、生物工学または化学の専門能力を養成するとともにそれぞれを融合した領域における能力を高めます。分野に特徴的なデータ整理法や解析手法の修得と、分りやすく表現する能力や口頭でのプレゼンテーション能力の向上を図り、国内外での学会等での研究成果発表や学術論文作成の指導が行われます。

大学院博士後期課程ではさらに高い専門的知識を活用した課題解決能力を養成します。

## 機械工学コースの教育・研究目標

機械技術を足場に、幅広い専門知識と高度な先端技術を修得することにより、学部における機械工学に関する種々の基礎知識を踏まえた「ものづくり教育」と関連づけながら、機械工学のより高度な専門的学識を身につけさせることを目指しています。そして、個々の学生がその適性や意欲に応じて高度な専門的研究を実施することで、新しい課題の発見や解決能力を修得し、研究者や高度専門職業人としての技術者に育成していくことを教育目標としています。特に、急速に発展する機械システムは、機械技術のみならず、IT や AI 技術など複合的工学分野に跨っており、機械システムの設計はもちろん、その構築や運用方式を探求でき、「ものづくり」を通して社会に貢献する研究者及び高度専門的職業人の育成を目指します。

## 機械工学コースのカリキュラム編成上の特色

機械工学コースは、機械系主要分野である材料工学、設計工学、生産加工学、熱・流体エネルギー工学、計測制御工学を網羅した研究領域を柱として、材料加工分野、エネルギー分野、計測制御分野の3分野に大別し、学部での学修を踏まえた、より高度な専門知識を修得できるようカリキュラム構成されています。学生は選択した分野での専門領域において高度な研究活動を行います。さらに、専門領域を基軸にして、高度情報化社会に適切に対応できるよう、機械工学コースの専門科目やコース横断科目を選択履修することで、幅広く、ものづくりにおける高度な先端技術に関する専門知識を修得させます。自らの専門領域を確立した研究者や高度専門職業人としての技術者育成を目指します。

大学院博士後期課程ではさらに高い専門能力を養成します。

## ロボティクスコースの教育・研究目標

産業界においては生産性の向上やコスト削減を図るため、ロボットに対する需要はより高くなるとともに、医療福祉分野及び生活支援分野においてもロボットのさらなる活躍が期待されています。このような時代のニーズに応えるため、高度な知能化技術などを備えた新時代のロボットを開発できる創造性豊かな技術者の育成が必要となります。ロボティクスコース

では、多様な社会ニーズを解決するために、機械工学、電気・電子工学、情報工学、制御工学などの幅広い分野の知識を横断的に融合し、自らロボットを研究・開発することによって、安心・安全な未来社会を支える研究者及び高度専門的職業人の育成を目指します。

### **ロボティクスコースのカリキュラム編成上の特色**

ロボティクスコースの研究分野は、機械工学、電気・電子工学、情報工学、制御工学などの幅広い分野の知識を横断的に学ぶことで、多様な社会ニーズに応える高度な専門能力を有する技術者の育成を特色としています。このため、ロボティクスコースのカリキュラムでは、「制御」と「システム」に関する知識・経験を二本の柱として、ロボットを制御するための専門知識及びシステムを設計・開発するための専門知識に関する科目群から構成されており、学部での学修を踏まえた、より高度で幅広い専門知識を修得できます。また、「特別研究」では、自身の研究を通して工学分野の様々な課題を解決するための能力を養い、ハードウェア及びソフトウェアの両面からロボットの研究開発に必要な実践力を着実に身につけることができます。そして、ロボティクスコースのカリキュラムの下でこれらの知識を用いてロボットの研究開発に積極的に参加するとともに、自らの研究内容を発表することによって高度なプレゼンテーション能力を養成します。

大学院博士後期課程ではさらに高い専門能力を養成します。

### **電子情報工学コースの教育・研究目標**

高度情報通信社会を支える人材育成の要請に応えるべく、電子工学・情報工学・計測制御工学・知能工学の分野において幅広く活躍できる技術者の育成を目指しています。このような教育理念のもと、現代の社会や産業の基盤となるような複雑なシステムを設計・構築し、かつ運用するために、電子工学・情報工学・計測制御工学・知能工学を基盤とした洞察力やシステム設計能力を備えるとともに、これらの工学分野の知識を横断的に身につけ、柔軟性とバランス感覚を持った技術者を育成することを教育目標としています。

### **電子情報工学コースのカリキュラム編成上の特色**

現代社会は人間と自然と機械と AI が調和して機能する複合体です。このような社会を支える複雑なシステムを設計・構築し、運用するためには、自然界に働きかけるハードウェアを製作するための電子工学、そのハードウェアを有効に機能させるソフトウェアを開発するための情報工学、さらには、これらを統合した技術で構築したシステムの状態を観測し、適切に運用するための計測制御工学、AI を軸としたヒューマンインターフェース技術やコンピュータネットワーク技術の知識と技術が必要となります。電子情報工学コースでは、これら電子工学・情報工学・計測制御工学・知能工学を技術横断的に融合した分野の研究・教育を行なっています。電子工学・情報工学・計測制御工学・知能工学における広範な分野の専門家である教員スタッフが互いに協力し研究を行ない、現代社会を支えるシステムを設計・構築・運用するエキスパートを育成します。

大学院博士後期課程ではさらに高い専門能力を養成します。

### **情報コースの教育・研究目標**

高度情報化社会の構築と発展に貢献するため、情報システム・情報メディアの分野における基礎から応用までの幅広い知識と技術を身につけた技術者の育成を目指しています。この教育理念のもと、現代社会や産業における複雑な課題を深く洞察し、それらを解決する高度情報処理システムを設計・構築・運用するために、情報数理学・情報メディア工学を基盤とした解析・分析力やシステム開発能力を備えるとともに、これらの工学分野の知識を広く身につけ、柔軟性とバランス感覚を兼備する技術者を育成します。

## 情報コースのカリキュラム編成上の特色

情報コースは「情報数理」と「情報メディア」を2つの柱として、教育・研究を幅広く展開しています。情報数理分野では、社会システムや生産システムなどを構築する際に必要となる AI や数理モデル化及びアルゴリズムに関する高度な専門知識を修得できるようにカリキュラムを編成しています。情報メディア分野では、画像処理・音響処理・マルチメディア処理・ヒューマンインタフェースなどのメディア情報処理における先端的な技術と知識を修得できるようにカリキュラムを編成しています。これらの分野の教員スタッフは互いに協力して教育・研究を行い、また学生には、選択した分野での高度な研究活動の指導とともに、分野を横断した幅広い教育を提供しており、高度情報化社会の要請に柔軟に対応できるエキスパートを育成します。

大学院博士後期課程ではさらに高い専門能力を養成します。

## 建築コースの教育・研究目標

建築コースは、持続可能社会を実現する未来志向の建築を目指して、地域に活力を与える建築デザイン、住む人に安心・安全を与える構造技術、省エネを実現する環境・設備に関する教育・研究を行います。そして、次のような3種の技術者を育成することを目標としています。1.地域に活力を与え、持続可能性に配慮した意匠設計ができる建築専門家、2.住む人に快適な環境を与え、持続可能性に配慮した設備設計ができる建築専門家、3.住む人に安心・安全を与え、持続可能性に配慮した構造設計ができる建築専門家。また、それぞれの目標に対して博士前期課程2年間で以下の知識・能力を身につけることを到達目標としています。1の目標に対して、(1-A)実務意匠設計力、(1-B)建築計画力、(1-C1)プレゼンテーション力、(1-C2)研究力。2の目標に対して、(2-A)実務設備設計力、(2-B)環境計画力、(2-C)研究力。3の目標に対して、(3-A)実務構造設計力、(3-B)構造計画力、(3-C)研究力。さらに、博士後期課程では、以上の能力をベースとして、自ら研究課題を見つけ、課題解決の道を探り、主体的に研究を遂行し、成果を論文にまとめ、国内外の学会で発表できる能力を養成します。また、研究室の学生、大学院生の研究指導をとおして、教育力、リーダーシップ力、コミュニケーション力を養成します。

## 建築コースのカリキュラム編成上の特色

以上の到達目標を達成するために、博士前期課程では、各目標に応じて以下のような科目を開講します。なお、博士前期課程のカリキュラムでは、インターンシップ科目を含む所定の科目を履修することで、一級建築士免許申請における実務経験が1年間認められます。(1-A)意匠設計に関する特論・演習とインターンシップ研修科目、(1-B)計画・環境系の特論・演習、(1-C1)意匠系の専修科目と特別研究、(1-C2)計画系の専修科目と特別研究。(2-A)設備設計に関する特論・演習とインターンシップ研修科目、(2-B)環境・計画系の特論・演習、(2-C)環境系の専修科目と特別研究。(3-A)構造設計に関する特論・演習とインターンシップ研修科目、(3-B)構造系の特論・演習、(3-C)構造系の専修科目と特別研究。

大学院博士後期課程ではさらに高い専門能力を養成します。

## 5. 入学から学位授与までの過程

### (1) 修了要件

#### — 博士前期課程 —

博士前期課程において2年以上在学し、定められた単位数（学位論文審査に関する手引きについて（p.31）内に記載の学位規程別表 1 参照）を修得した者または論文審査終了までに修得する見込のある者で、かつ外国語の学力等に関する検定に合格した者に対しては、修士論文の提出資格が与えられ、提出した論文の審査及び最終試験に合格すれば、修士の学位が授与され、「博士前期課程修了」となります。

#### ※修了に要する単位数※

専修科目：2単位 特別研究：12単位 専修科目以外の科目：16単位以上

合計 30単位以上

（生物化学コースのみ、専修科目：4単位 特別研究：12単位 専修科目以外の科目：14単位以上

合計 30単位以上）

※履修の詳細な要件については、後掲の「6. 履修」（p.12）をご確認ください。

#### — 博士後期課程 —

博士後期課程において3年以上在学し、定められた単位数（学位論文審査に関する手引きについて（p.31）内に記載の学位規程別表 1 参照）を修得した者または論文審査終了までに修得する見込のある者で、かつ外国語の学力等に関する検定に合格した者に対しては、課程修了による博士論文の提出資格が与えられます。提出した論文の審査及び最終試験に合格すれば、課程修了による博士の学位が授与され、「博士後期課程修了」ということになります。

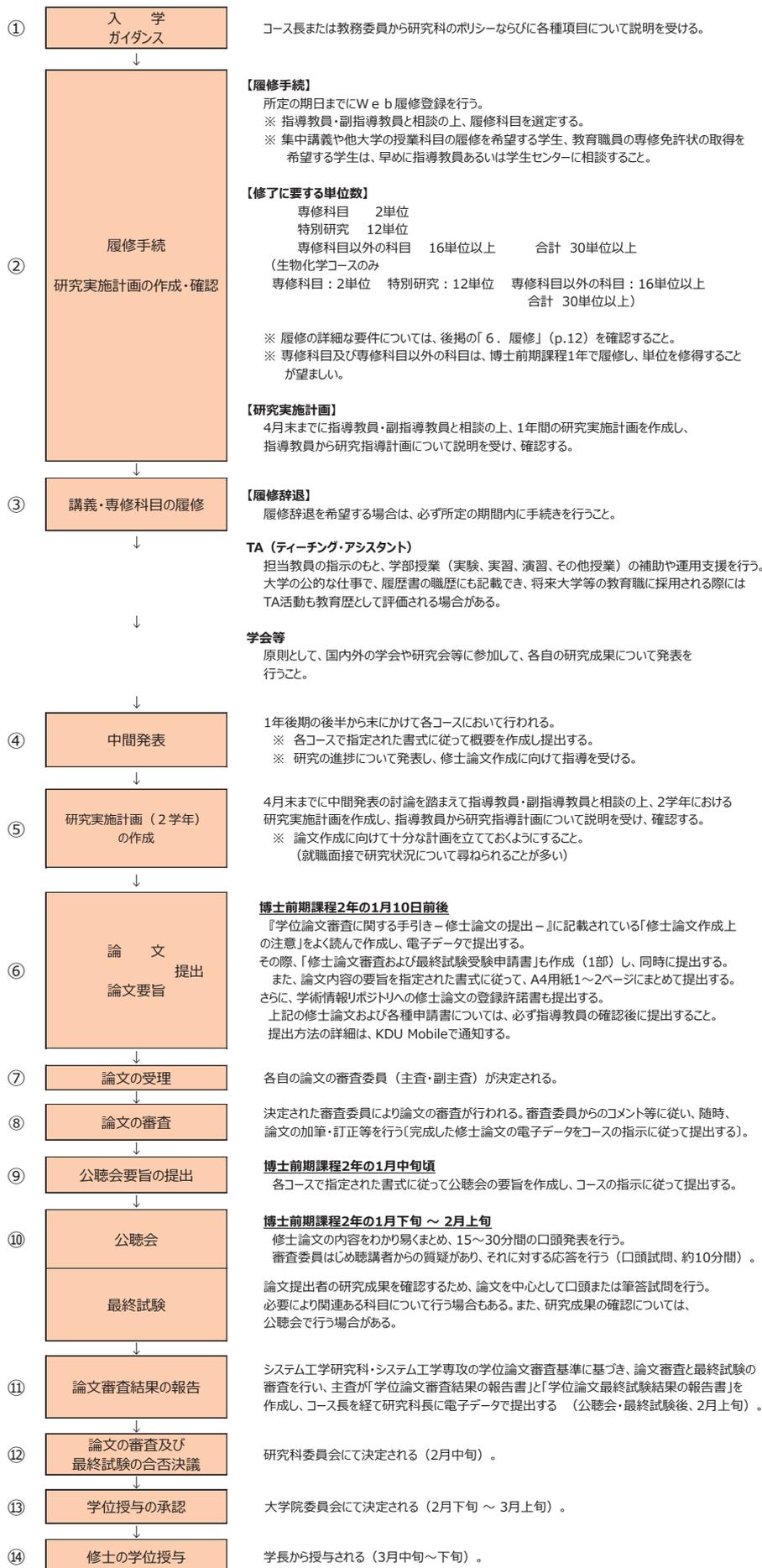
#### ※修了に要する単位数※

専修科目「特殊研究」：6単位 専修科目と関連する授業科目：2単位以上

合計 10単位以上

※履修の詳細な要件については、後掲の「6. 履修」（p.16）をご確認ください。

## (2) 修学のガイドライン (博士前期課程)



博士前期課程1年

博士前期課程1・2年

博士前期課程2年

※詳細は近畿大学学位規程及び論文学位論文審査に関する手引きをご確認ください。

(3) 修学のガイドライン (博士後期課程) (課程修了による)



博士後期課程1年

博士後期課程2年

博士後期課程3年

※詳細は近畿大学学位規程及び論文学位論文審査に関する手引きをご確認ください。

令和8年度 大学院システム工学研究科 システム工学専攻 研究指導計画書

提出日:令和 年 月 日

|   |     |        |       |    |
|---|-----|--------|-------|----|
| 博士前期課程<br>博士後期課程  | コース | 年<br>年 | 学籍番号  | 氏名 |
| 指導教員  |     |        | 副指導教員 |    |
| 研究題目:   |     |        |       |    |
| 【研究実施計画】 (学生が指導教員と十分相談の上で記入)  |     |        |       |    |
| ○研究の背景  |     |        |       |    |
| <p><b>関連する国内・国外の研究の動向やその中での本研究の位置づけについて、また学術的な特色や独創的な点等を記入する。</b></p>   |     |        |       |    |
| <p>※研究題目と研究実施計画について指導教員と相談の上、記入してください。</p>  |     |        |       |    |
| ○研究目的と研究内容(実施内容)  |     |        |       |    |
| <p><b>当該年度内に何をどこまで行おうとするのか、またどんな実験や理論計算をするのか等を記入する。</b></p>   |     |        |       |    |
| <p>※下記の点に留意し、研究実施計画は学生が記入、研究指導計画は主指導教員が作成してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画書の作成にあたっては、教員は学生と十分な打合せを行う。</li> <li>・標準修業年限の間に論文が作成できるように計画する。</li> <li>・学会での研究発表や論文投稿等を積極的に位置づける。</li> </ul> |     |        |       |    |
| 【研究指導計画】 (教員が学生と相談の上記入し、十分説明する)   |     |        |       |    |
| <p><b>論文指導に係わる研究会や学会での発表、論文投稿などを適宜位置づけて記入する。</b></p>  |     |        |       |    |
| <p>・1または2ページで作成し、2ページの場合は両面印刷してください。</p> <p>・指導教員は本研究指導計画書を、各年度の4月末までにコース長に提出してください。<br/>(博士後期課程については専攻主任へ提出してください。)</p>  |     |        |       |    |

## 6. 履修

### (1) 履修方法・授業科目・担当教員（博士前期課程）

- 「専門科目」の選択必修科目の中から選択した1科目2単位（生物化学コースのみ4単位とし、これをその学生の専修科目とする）、専修科目の属するコースの特別研究2科目12単位、「共通基礎科目」の必修科目2単位ならびに選択必修科目の中から選択した1科目2単位、及び「横断科目（コース基礎）」の中から選択した1科目2単位（専修科目の属するコースの科目を除く）を必修とし、さらにそれら科目を除く授業科目の内「専門科目」8単位以上を含む10単位以上（生物化学コースのみ6単位以上を含む8単位以上）、合計30単位以上を修得しなければならない。なお、「横断科目（コース基礎）」の中から選択する1科目2単位は「横断科目（特修）」で振り替えることができる。また、建築コースの実務研修（学外インターンシップ）科目または実務演習（学内インターンシップ）科目の4単位を取得した場合は、この1科目2単位の取得は免除される。
- 学生は専修科目を担当する教員を指導教員とし、1名以上の副指導教員を加えた複数指導教員による研究指導ならびに授業科目の選択等研究一般に関する指導を受けなければならない。
- 指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めて、他の研究科又は他の大学院から修得させた授業科目（講義）の単位は、10単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

※印は、当該科目が専修科目となる教員となります。

| 区分   | コース      | 分野          | 授業科目         | 単位数       |      |                 | 担当教員   |
|------|----------|-------------|--------------|-----------|------|-----------------|--|
|      |          |             |              | 必修        | 選択必修 | 選択              |  |
| 専門科目 | 生物化学コース  | 生物化学        | 化学応用工学特論     |           | 4    |                 | 教授 博(工) 白石 浩平 ※<br>教授 博(工) 小森 喜久夫 ※<br>教授 博(理) 山田 泰之<br>准教授 博(工) 北岡 賢<br>講師 博(工) 阿野 勇介   |
|      |          |             | 機能物性化学特論     |           | 4    |                 | 教授 博(工) 白石 浩平<br>教授 博(工) 小森 喜久夫<br>教授 博(理) 山田 泰之 ※<br>准教授 博(工) 北岡 賢 ※<br>講師 博(理) 塩谷 暢貴   |
|      |          |             | 生物応用工学特論     |           | 4    |                 | 教授 博(医) 仲宗根 薫<br>教授 博(農) 松鹿 昭則<br>教授 博(工) 櫻井 敏彦 ※<br>准教授 博(工) 蟹江 慧 ※                     |
|      |          |             | 生命システム工学特論   |           | 4    |                 | 教授 博(医) 仲宗根 薫 ※<br>教授 博(農) 松鹿 昭則 ※<br>教授 博(工) 櫻井 敏彦<br>准教授 博(工) 蟹江 慧<br>准教授 博(理) 小川 智弘 ※ |
|      |          |             | 生体関連化学特論     |           |      | 2               | 教授 博(工) 小森 喜久夫   |
|      |          |             | 分子機能化学特論     |           |      | 2               | 教授 博(工) 小森 喜久夫   |
|      |          |             | ナノバイオサイエンス特論 |           |      | 2               | 教授 博(工) 櫻井 敏彦  |
|      |          |             | 生体分子化学特論     |           |      | 2               | 教授 博(工) 櫻井 敏彦  |
|      |          | 特別研究        | 化学生命工学特別研究Ⅰ  | 6         |      |                 | 各専修科目担当教員  |
|      |          | 化学生命工学特別研究Ⅱ | 6            |           |      |                 |  |
|      |          | 共通          | 化学生命工学特論     |           |      | 2               | 教授 博(医) 仲宗根 薫<br>教授 博(農) 松鹿 昭則<br>教授 博(工) 小森 喜久夫<br>准教授 博(工) 北岡 賢<br>講師 博(理) 塩谷 暢貴       |
|      |          |             | 生命工学関連特別講義   |           |      | 2               | 非常勤講師 石元 孝佳  |
|      |          | 機械工学コース     | 材料加工         | 金属材料加工学特論 |      | 2               | 教授 博(工) 旗手 稔 ※   |
|      | 生産加工学特論  |             |              |           | 2    | 教授 博(工) 生田 明彦 ※ |  |
|      | 機械力学特論   |             |              |           | 2    | 教授 博(工) 関口 泰久 ※ |  |
|      | 機能材料工学特論 |             |              |           | 2    | 教授 博(工) 信木 関 ※  |  |
|      | 固体力学特論   |             |              |           | 2    | 教授 博(工) 伊藤 寛明 ※ |  |

| 区分        | コース       | 分野             | 授業科目            | 単位数      |      |          | 担当教員      |           |         |   |  |
|-----------|-----------|----------------|-----------------|----------|------|----------|-----------|-----------|---------|---|--|
|           |           |                |                 | 必修       | 選択必修 | 選択       |           |           |         |   |  |
| 専門科目      | 機械工学コース   | エネルギー          | 粘性流体力学特論        |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 亀田 孝嗣   | ※ |  |
|           |           |                | 熱工学特論           |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 井上 修平   | ※ |  |
|           |           | 計測制御特別研究共通     | 計測自動制御特論        |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 樹野 淳也   | ※ |  |
|           |           |                | 機械工学特別研究 I      | 6        |      |          | 各専修科目担当教員 |           |         |   |  |
|           |           | 機械工学特別研究 II    | 6               |          |      |          |           |           |         |   |  |
|           |           | 機械工学関連特別講義     |                 |          | 2    | 令和8年度不開講 |           |           |         |   |  |
|           | ロボティクスコース | 制御             | ロボットシステム制御特論    |          | 2    |          | 教授        | 博(工)・博(医) | 黄 健     | ※ |  |
|           |           |                | システムインテグレーション特論 |          | 2    |          | 令和8年度不開講  |           |         |   |  |
|           |           |                | ロボット情報学特論       |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 岩谷 靖    | ※ |  |
|           |           |                | ロボットメカニズム特論     |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 衣笠 哲也   | ※ |  |
|           |           | システム           | 車両運動力学特論        |          | 2    |          | 准教授       | 博(工)      | 酒井 英樹   | ※ |  |
|           |           |                | 生体流動学特論         |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 白井 敦    | ※ |  |
|           |           |                | 機械システム制御設計特論    |          | 2    |          | 准教授       | 博(工)      | 田上 将治   | ※ |  |
|           |           |                | フィールドロボット特論     |          | 2    |          | 准教授       | 博(工)      | 筑紫 彰太   | ※ |  |
|           |           | 特別研究           | ロボティクス特別研究 I    | 6        |      |          | 各専修科目担当教員 |           |         |   |  |
|           |           |                | ロボティクス特別研究 II   | 6        |      |          |           |           |         |   |  |
|           | 電子情報工学コース | 電子工学           | 電子通信工学特論        |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 佐々木 愛一郎 | ※ |  |
|           |           |                | 電子回路工学特論        |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 中田 俊司   | ※ |  |
|           |           |                | レーザー工学特論        |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 部谷 学    | ※ |  |
|           |           | 計測工学           | 計測工学特論          |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 廿日出 好   | ※ |  |
|           |           |                | 情報工学            | 知能情報工学特論 |      | 2        |           | 令和8年度不開講  |         |   |  |
|           |           | 数理情報工学特論       |                 |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 中島 弘之   | ※ |  |
|           |           | 医用画像処理特論       |                 |          | 2    |          | 准教授       | 博(工)      | 石川 雅浩   | ※ |  |
|           |           | 画像科学特論         |                 |          | 2    |          | 准教授       | 博(工)      | 吉田 大海   | ※ |  |
|           |           | 特別研究           | 電子情報工学特別研究 I    | 6        |      |          | 各専修科目担当教員 |           |         |   |  |
|           |           |                | 電子情報工学特別研究 II   | 6        |      |          |           |           |         |   |  |
|           | 情報コース     | 情報数理           | 生産システム特論        |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 片岡 隆之   | ※ |  |
|           |           |                | 計算知能特論          |          | 2    |          | 准教授       | 博(工)      | 阪口 龍彦   | ※ |  |
|           |           | 情報メディア         | 音響処理特論          |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 荻原 昭夫   | ※ |  |
|           |           |                | 画像処理特論          |          | 2    |          | 教授        | 博(工)      | 古川 亮    | ※ |  |
|           |           |                | メディア情報特論        |          | 2    |          | 准教授       | 博(情報科学)   | 加島 智子   | ※ |  |
|           |           |                | マルチメディア特論       |          | 2    |          | 准教授       | 博(工)      | 町田 学    | ※ |  |
|           |           | 特別研究           | 情報特別研究 I        | 6        |      |          | 各専修科目担当教員 |           |         |   |  |
| 情報特別研究 II |           |                | 6               |          |      |          |           |           |         |   |  |
| 共通        |           | 情報システム特論       |                 |          | 2    | 准教授      | 博(工)      | 木村 有寿     |         |   |  |
|           |           | ヒューマンインタフェース特論 |                 |          | 2    | 講師       | 博(医)      | 中村 一美     |         |   |  |
| 建築コース     | 意匠・計画     | 建築意匠学特論        |                 | 2        |      | 教授       | 修(工)      | 土井 一秀     | ※       |   |  |
|           |           | 意匠設計学特論        |                 | 2        |      | 教授       | 博(建築学)    | 前田 圭介     | ※       |   |  |
|           |           | 建築計画学特論        |                 | 2        |      | 准教授      | 博(工)      | 谷川 大輔     | ※       |   |  |
|           |           | 意匠設計実務研修       |                 |          | 4    | 教授       | 博(工)      | 市川 尚紀     |         |   |  |
|           |           | 意匠設計実務演習       |                 |          | 4    | 教授       | 修(工)      | 土井 一秀     |         |   |  |
|           |           |                |                 |          |      | 4        | 教授        | 博(建築学)    | 前田 圭介   |   |  |
|           |           | 建築計画特論         |                 |          | 2    | 准教授      | 博(工)      | 谷川 大輔     |         |   |  |
|           |           | 建築計画演習         |                 |          | 2    | 准教授      | 博(工)      | 谷川 大輔     |         |   |  |
|           |           | 意匠設計特論         |                 |          | 2    | 教授       | 修(工)      | 土井 一秀     |         |   |  |
|           | 意匠設計演習    |                |                 | 2        | 教授   | 博(建築学)   | 前田 圭介     |           |         |   |  |
|           | 環境・設備     | 建築環境学特論        |                 | 2        |      | 教授       | 博(工)      | 崔 軍       | ※       |   |  |
| 環境設計学特論   |           |                | 2               |          | 教授   | 博(工)     | 市川 尚紀     | ※         |         |   |  |
| 設備設計実務研修  |           |                |                 | 4        | 教授   | 博(工)     | 崔 軍       |           |         |   |  |

| 区分     | コース      | 分野            | 授業科目     | 単位数          |           |          | 担当教員  |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|--------|----------|---------------|----------|--------------|-----------|----------|-------|------------------------------|----------|-------------|------|-------------|------|--------------|------|-------------|------|------------|------|-------------|------|-------------|
|        |          |               |          | 必修           | 選択必修      | 選択       |       |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
| 専門科目   | 建築コース    | 環境・設備         | 建築環境特論   |              |           | 2        | 教授    | 博(工)                         | 崔 軍      |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 建築環境演習   |              |           | 2        | 教授    | 博(工)                         | 市川 尚紀    |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 設備設計特論   |              |           | 2        | 教授    | 博(工)                         | 崔 軍      |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 設備設計演習   |              |           | 2        | 教授    | 博(工)                         | 崔 軍      |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | 構造・材料         | 構造解析学特論  |              | 2         |          | 教授    | 博(工)                         | 藤井 大地 ※  |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 構造工学特論   |              | 2         |          | 教授    | 博(工)                         | 崎野 良比呂 ※ |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 建築材料学特論  |              | 2         |          | 教授    | 博(工)                         | 松本 慎也 ※  |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 建築生産学特論  |              | 2         |          | 准教授   | 博(工)                         | 寺井 雅和 ※  |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 構造創生学特論  |              | 2         |          | 准教授   | 博(工)                         | 藤田 慎之輔 ※ |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 構造設計実務研修 |              |           | 4        | 教授    | 博(工)                         | 藤井 大地    |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 構造計画特論   |              |           | 2        | 准教授   | 博(工)                         | 寺井 雅和    |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 構造計画演習   |              |           | 2        | 准教授   | 博(工)                         | 寺井 雅和    |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 構造解析特論   |              |           | 2        | 教授    | 博(工)                         | 松本 慎也    |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          |               | 構造解析演習   |              |           | 2        | 教授    | 博(工)                         | 松本 慎也    |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | 構造設計特論        |          |              | 2         | 教授       | 博(工)  | 崎野 良比呂                       |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
| 構造設計演習 |          |               | 2        | 准教授          | 博(工)      | 藤田 慎之輔   |       |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
| 特別研究   | 建築学特別研究Ⅰ | 6             |          |              | 各専修科目担当教員 |          |       |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        | 建築学特別研究Ⅱ | 6             |          |              |           |          |       |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
| 共通     | 建築関連特別講義 |               |          | 2            | 非常勤講師     |          | 田中 貴宏 |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        | 単位互換科目   |               |          |              |           |          |       |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
| 共通基礎科目 | 基礎数理科学   | 代数学特論         |          |              | 2         | 令和8年度不開講 |       |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | 解析学特論         |          |              | 2         | 令和8年度不開講 |       |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | 応用幾何学特論       |          |              | 2         | 令和8年度不開講 |       |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | 応用確率統計特論      |          |              | 2         | 令和8年度不開講 |       |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | システム代数学特論     |          |              | 2         | 令和8年度不開講 |       |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | 論理数学特論        |          |              | 2         | 准教授      | 博(工)  | 山内 雅弘                        |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | システム工学特論      |          |              | 2         | 令和8年度不開講 |       |                              |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        | 国際・キャリア  | 英語論文作成演習      |          | 2            |           | 准教授      | 博(文)  | 中山 文                         |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | 英語プレゼンテーション実習 |          | 2            |           | 教授       | 博(医)  | 仲宗根 薫<br>非常勤講師 ジョン コール       |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | 海外語学研修        |          | 2            |           | 准教授      | 博(文)  | 中山 文                         |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | 実践技術者倫理       | 2        |              |           | 教授       | 博(工)  | 廿日出 好<br>町田 学<br>非常勤講師 吉田 克己 |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        |          | キャリア教育特別講義    |          |              | 2         | 教授       | 博(学術) | 松岡 敬興                        |          |             |      |             |      |              |      |             |      |            |      |             |      |             |
|        | 横断科目     | コース基礎         | 生物化学     | 化学生命工学基礎特別講義 |           | 2        |       | 教授                           | 博(工)     | 白石 浩平<br>教授 | 博(工) | 櫻井 敏彦<br>教授 | 博(理) | 山田 泰之<br>准教授 | 博(工) | 蟹江 慧<br>講師  | 博(工) | 阿野 勇介      |      |             |      |             |
|        |          |               | 機械工学     | 機械工学基礎特別講義   |           | 2        |       | 教授                           | 博(工)     | 旗手 稔<br>教授  | 博(工) | 生田 明彦<br>教授 | 博(工) | 樹野 淳也<br>教授  | 博(工) | 関口 泰久<br>教授 | 博(工) | 信木 関<br>教授 | 博(工) | 井上 修平<br>教授 | 博(工) | 亀田 孝嗣<br>教授 |

| 区分   | コース   | 分野         | 授業科目         | 単位数 |      |    | 担当教員  |  |  |
|------|-------|------------|--------------|-----|------|----|---|--|--|
|      |       |            |              | 必修  | 選択必修 | 選択 |   |  |  |
| 横断科目 | コース基礎 | ロボティクス     | ロボティクス基礎特別講義 |     | 2    |    | 教授 博(工) 岩谷 靖<br>教授 博(工) 衣笠 哲也<br>准教授 博(工) 酒井 英樹<br>准教授 博(工) 筑紫 彰太 |  |  |
|      |       | 電子情報工学     | 電子情報工学基礎特別講義 |     | 2    |    | 講師 博(工) 小松 弘和   |  |  |
|      |       | 情報         | 情報基礎特別講義     |     | 2    |    | 非常勤講師 肖 業貴  |  |  |
|      |       | 建築         | 建築基礎特別講義     |     | 2    |    | 教授 博(工) 藤井 大地   |  |  |
|      | 特修    | システム工学特別研修 |              |     |      | 2  | 教授 博(工) 白石 浩平<br>教授 博(工) 藤井 大地<br>教授 博(工) 廿日出 好<br>教授 博(工) 片岡 隆之  |  |  |
|      |       | プロジェクト研修   |              |     |      | 2  | 教授 博(工) 白石 浩平<br>教授 博(工) 藤井 大地<br>教授 博(工) 廿日出 好<br>教授 博(工) 片岡 隆之  |  |  |
|      |       |            | 単位互換科目       |     |      | 2  |   |  |  |

### ○カリキュラムマップ・カリキュラムツリー

カリキュラムマップやカリキュラムツリーは学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明示するものです。カリキュラムツリーを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には、カリキュラムツリーを参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

工学部トップ > 学科・専攻案内 > システム工学専攻  
<https://www.kindai.ac.jp/engineering/department/graduate/>



(2) 履修方法・授業科目・担当教員 (博士後期課程)

1. 本課程に3年以上在学し、「特殊研究」の授業科目の中から選定した1科目6単位 (これをその学生の専修科目とする) を必修とし、さらに「関連科目」の授業科目の中から専修科目と関連する授業科目2単位以上、合計10単位以上を修得しなければならない。
2. 学生は専修科目を担当する教員を指導教員とする。さらに、指導教員と協議のうえ副指導教員を選定し、その副指導教員を加えた複数指導教員による研究指導を受けなければならない。

※印は、当該科目が専修科目となる教員

| 分野             | 授業科目            | 単位数 |      |                 | 担当教員              |                 |
|----------------|-----------------|-----|------|-----------------|-------------------|-----------------|
|                |                 | 必修  | 選択必修 | 選択              |                   |                 |
| 特殊研究           | マテリアルデザイン化学特殊研究 |     | 6    |                 | 令和8年度不開講          |                 |
|                | 生物変換制御学特殊研究     |     | 6    |                 | 教授 博(農) 松鹿 昭則 ※   |                 |
|                | 生物物理化学特殊研究      |     | 6    |                 | 教授 博(工) 小森 喜久夫 ※  |                 |
|                | 機能性分子組織化学特殊研究   |     | 6    |                 | 教授 博(理) 山田 泰之 ※   |                 |
|                | 建築構造学特殊研究       |     | 6    |                 | 教授 博(工) 崎野 良比呂 ※  |                 |
|                | 建築計画学特殊研究       |     | 6    |                 | 教授 博(工) 市川 尚紀 ※   |                 |
|                | 建築材料学特殊研究       |     | 6    |                 | 教授 博(工) 松本 慎也 ※   |                 |
|                | 意匠設計学特殊研究       |     | 6    |                 | 教授 博(建築学) 前田 圭介 ※ |                 |
|                | 材料・加工工学特殊研究     |     |      | 6               |                   | 教授 博(工) 生田 明彦 ※ |
|                |                 |     |      |                 |                   | 教授 博(工) 信木 関 ※  |
|                |                 |     |      |                 |                   | 教授 博(工) 伊藤 寛明 ※ |
|                | 熱・流体エネルギー特殊研究   |     |      | 6               |                   | 教授 博(工) 井上 修平 ※ |
|                |                 |     |      |                 |                   | 教授 博(工) 亀田 孝嗣 ※ |
|                |                 |     |      |                 |                   | 教授 博(工) 白井 敦 ※  |
|                | 情報制御システム特殊研究    |     | 6    |                 | 教授 博(工) 樹野 淳也 ※   |                 |
|                | ロボット情報学特殊研究     |     | 6    |                 | 教授 博(工) 岩谷 靖 ※    |                 |
|                | ロボットメカニズム特殊研究   |     | 6    |                 | 教授 博(工) 衣笠 哲也 ※   |                 |
|                | メディア情報処理特殊研究    |     |      | 6               |                   | 教授 博(工) 荻原 昭夫 ※ |
| 教授 博(工) 古川 亮 ※ |                 |     |      |                 |                   |                 |
| 電気エネルギー特殊研究    |                 | 6   |      | 教授 博(工) 中田 俊司 ※ |                   |                 |
| 計測システム工学特殊研究   |                 | 6   |      | 教授 博(工) 廿日出 好 ※ |                   |                 |
| レーザー工学特殊研究     |                 | 6   |      | 教授 博(工) 部谷 学 ※  |                   |                 |
| 関連科目           | 機能材料設計化学特論      |     |      | 2               | 教授 博(理) 山田 泰之     |                 |
|                |                 |     |      |                 | 教授 博(工) 白石 浩平     |                 |
|                |                 |     |      |                 | 教授 博(工) 小森 喜久夫    |                 |
|                | 環境化学特論          |     |      |                 | 2                 | 教授 博(工) 白石 浩平   |
|                |                 |     |      |                 |                   | 教授 博(医) 仲宗根 薫   |
|                |                 |     |      |                 |                   | 教授 博(工) 小森 喜久夫  |
|                | 分子生命化学特論        |     |      |                 | 2                 | 教授 博(農) 松鹿 昭則   |
|                |                 |     |      |                 |                   | 教授 博(工) 白石 浩平   |
| 教授 博(理) 山田 泰之  |                 |     |      |                 |                   |                 |
| 応用生命工学特論       |                 |     |      | 2               | 教授 博(工) 小森 喜久夫    |                 |
|                |                 |     |      |                 | 教授 博(医) 仲宗根 薫     |                 |
|                |                 |     |      |                 | 教授 博(農) 松鹿 昭則     |                 |
| 生命システム情報学特論    |                 |     |      | 2               | 教授 博(医) 仲宗根 薫     |                 |
|                |                 |     |      |                 | 教授 博(農) 松鹿 昭則     |                 |
|                |                 |     |      |                 | 教授 博(理) 山田 泰之     |                 |
| 構造デザイン学特論      |                 |     |      | 2               | 教授 博(工) 藤井 大地     |                 |
| 建築構造材料学特論      |                 |     |      | 2               | 教授 博(工) 松本 慎也     |                 |
| 建築伝熱工学特論       |                 |     |      | 2               | 教授 博(工) 崔 軍       |                 |

| 分野         | 授業科目           | 単位数 |      |    | 担当教員 |           |        |
|------------|----------------|-----|------|----|------|-----------|--------|
|            |                | 必修  | 選択必修 | 選択 |      |           |        |
| 関連科目       | 溶接構造学特論        |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 崎野 良比呂 |
|            | 環境デザイン学特論      |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 市川 尚紀  |
|            | 建築デザイン学特論      |     |      | 2  | 教授   | 博（建築学）    | 前田 圭介  |
|            | 素形材工学特論        |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 旗手 稔   |
|            | 接合工学特論         |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 生田 明彦  |
|            | 超精密成形加工学特論     |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 伊藤 寛明  |
|            | ロボット・システム工学特論  |     |      | 2  | 教授   | 博（工）・博（医） | 黄 健    |
|            | 生体流動システム学特論    |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 白井 敦   |
|            | 先端ロボット情報学特論    |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 岩谷 靖   |
|            | 先端ロボットメカニズム特論  |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 衣笠 哲也  |
|            | 光熱工学特論         |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 井上 修平  |
|            | 乱流輸送現象特論       |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 亀田 孝嗣  |
|            | 人間機械システムデザイン特論 |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 樹野 淳也  |
|            | 材料物性工学特論       |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 信木 関   |
|            | 複雑系力学特論        |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 中島 弘之  |
|            | 音響情報処理特論       |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 荻原 昭夫  |
|            | 画像情報処理特論       |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 古川 亮   |
|            | 電気機器学特論        |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 中田 俊司  |
| 計測システム特論   |                |     | 2    | 教授 | 博（工） | 廿日出 好     |        |
| レーザー加工工学特論 |                |     | 2    | 教授 | 博（工） | 部谷 学      |        |
| 共通科目       | 大学の授業設計と実践方法   |     |      | 2  | 准教授  | 博（人間科学）   | 竹中 喜一  |
|            | ジョブ型研究インターンシップ |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 崎野 良比呂 |
|            | コミュニケーションスキル演習 |     |      | 1  | 教授   | 博（工）      | 崎野 良比呂 |
|            | 実学コラボレーション演習   |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 崎野 良比呂 |
|            | 博士リテラシー        |     |      | 2  | 教授   | 博（工）      | 崎野 良比呂 |

### ○カリキュラムマップ・カリキュラムツリー

カリキュラムマップやカリキュラムツリーは学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明示するものです。カリキュラムツリーを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には、カリキュラムツリーを参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

工学部トップ > 学科・専攻案内 > システム工学専攻  
<https://www.kindai.ac.jp/engineering/department/graduate/>



## 7. 学位論文審査

### (1) 学位論文審査基準

【修士論文】

#### 1. 審査体制

修士論文の審査では、近畿大学学位規程第 8 条（修士論文の審査）に従って、博士前期課程担当の指導教員の資格を有する者のうち 3 名以上をもって、そのうち 1 名を主査とし、2 名以上を副主査とする。ただし、必要がある場合には、他の審査委員（本学他研究科修士課程・博士前期課程、さらに他大学大学院の修士課程・博士前期課程において、指導教員の資格を持つ者を含む）を副主査として加えることができる。

なお、原則として修士論文を提出した者の指導教員は主査にあたらぬこととする。ただし、論文審査において支障がきたす場合は、審査プロセスの透明性、公平性及び公正性を担保して、指導教員が主査にあたる事が認められる場合がある。

#### 2. 資格要件

審査対象論文は、近畿大学学位規程第 7 条（修士論文の提出）の要件を満たすものとする。

#### 3. 評価項目

近畿大学学位規程第 10 条（修士論文合格基準）を踏まえ、以下のとおり論文審査の評価項目を定める。

- (1) 背景とテーマ設定の適切性
- (2) 方法の信頼性・適切性
- (3) 結果の論理性・明確性
- (4) 考察と結論の論理性・新規性・発展性
- (5) 研究倫理の妥当性

#### 4. 評価方法と判定

(1) 全ての審査委員が、別表に定める修士学位論文評価基準表 A に基づき(1)から(4)の各評価項目（各評価項目の比重割合：(1)25%、(2)25%、(3)25%、(4)25%）を、0～20 点で評価し（1 点刻み、80 点満点）、評価項目(5)を適または不適で評価する。

(2) 当該修士論文における審査委員の主査は、近畿大学学位規程第 9 条（最終試験）及び近畿大学学位規程第 12 条（合否の決定）に基づき、論文審査と最終試験の審査において、評価点数の合計が 48 点以上であること、かつ 0 点の評価項目がないこと、かつ評価項目(5)の評価結果が適であること、をもって学位授与を可として、研究科委員会に学位授与の可否を報告する。研究科委員会は、近畿大学学位規程第 12 条（合否の決定）に則って、学位論文の審査と最終試験の合否を決定する。続いて、近畿大学学位規程第 13 条（学位の授与）に従って、研究科委員会は、合否の議決に意見を付して、大学院委員会の議を経て、学長に報告する。学長は、大学院委員会の合否の議決結果に基づき、修士の学位を授与する。

## 【博士論文（課程修了による）】

### 1. 審査体制

博士論文の審査では、近畿大学学位規程第 15 条（博士論文の審査）に従って、博士後期課程担当の指導教員の資格を有する者のうち 3 名以上をもって、そのうち 1 名を主査とし、2 名以上を副主査とする。ただし、必要がある場合には、他の審査委員（本学他研究科博士課程・博士後期課程、さらに他大学大学院の博士課程・博士後期課程において、指導教員の資格を持つ者を含む）を副主査として加えることができる。

なお、原則として博士論文を提出した者の指導教員は主査にあたらないこととする。

### 2. 資格要件

審査対象論文は、近畿大学学位規程第 14 条（博士論文の提出）の要件を満たすものとする。

### 3. 評価項目

近畿大学学位規程第 17 条（博士論文合格基準）を踏まえ、以下に論文審査の評価項目を定める。

- (1) 背景とテーマ設定の適切性
- (2) 方法の信頼性・適切性
- (3) 結果の論理性・明確性
- (4) 考察と結論の論理性・新規性・発展性
- (5) 研究倫理の妥当性

### 4. 評価方法と判定

(1) 全ての審査委員が、別表に定める博士学位論文評価基準表 A に基づき(1)から(4)の各評価項目（各評価項目の比重割合：(1)25%、(2)25%、(3)25%、(4)25%）を、0～20 点で評価し（1 点刻み、80 点満点）、評価項目(5)を適または不適で評価する。

(2) 当該博士論文における審査委員の主査は、近畿大学学位規程第 16 条（最終試験）及び近畿大学学位規程第 19 条（合否の決定）に基づき、論文審査と最終試験の審査において、評価点数の合計が 48 点以上であること、かつ 0 点の評価項目がないこと、かつ評価項目(5)の評価結果が適であること、をもって学位授与を可として、研究科委員会に学位授与の可否を報告する。研究委員会は、近畿大学学位規程第 19 条（合否の決定）に則って、学位論文の審査と最終試験の合否を決定する。続いて、近畿大学学位規程第 20 条（学位の授与）に従って、研究科委員会は、合否の議決に意見を付して、大学院委員会の議を経て、学長に報告する。学長は、大学院委員会の合否の議決結果に基づき、博士の学位を授与する。

## 【博士論文（論文提出による）】

### 1. 審査体制

博士論文の審査では、近畿大学学位規程第 15 条（博士論文の審査）に従って、博士後期課程担当の指導教員の資格を有する者のうち 3 名以上をもって、そのうち 1 名を主査とし、2 名以上を副主査とする。ただし、必要がある場合には、他の審査委員（本学他研究科博士課程・博士後期課程、さらに他大学大学院の博士課程・博士後期課程において、指導教員の資格を持つ者を含む）を副主査として加えることができる。

なお、原則として博士論文を提出した者の指導教員は主査にあたらぬこととする。

### 2. 資格要件

審査対象論文は、近畿大学学位規程第 22 条（学位申請手続）の要件を満たすものとする。

### 3. 評価項目

近畿大学学位規程第 17 条（博士論文合格基準）を踏まえ、以下に論文審査の評価項目を定める。

- (1) 背景とテーマ設定の適切性
- (2) 方法の信頼性・適切性
- (3) 結果の論理性・明確性
- (4) 考察と結論の論理性・新規性・発展性
- (5) 研究倫理の妥当性

### 4. 評価方法と判定

(1) 全ての審査委員が、別表に定める博士学位論文評価基準表 A に基づき(1)から(4)の各評価項目（各評価項目の比重割合：(1)25%、(2)25%、(3)25%、(4)25%）を、0～20 点で評価し（1 点刻み、80 点満点）、評価項目(5)を適または不適で評価する。

(2) 当該博士論文における審査委員の主査は、近畿大学学位規程第 25 条（学力の確認）及び近畿大学学位規程第 27 条（博士論文の審査方法）に基づき、論文審査と最終試験の審査において、評価点数の合計が 48 点以上であること、かつ 0 点の評価項目がないこと、かつ評価項目(5)の評価結果が適であること、をもって学位授与を可として、研究科委員会に学位授与の可否を報告する。研究科委員会は、近畿大学学位規程第 27 条（博士論文の審査方法）に則って、学位論文の審査と最終試験の合否を決定する。続いて、近畿大学学位規程第 21 条（論文提出による学位の授与）に従って、研究科委員会は、合否の議決に意見を付して、大学院委員会の議を経て、学長に報告する。学長は、大学院委員会の合否の議決結果に基づき、博士の学位を授与する。

(別表)

[修士学位論文評価基準表A]

| 評価項目                  | 評価内容(例) ※1   | 点数 ※2                      |                               |   |             |               | 評点           |
|-----------------------|--|----------------------------|-------------------------------|---|-------------|---------------|--------------|
|                       |  | 20点                        | 12点                           | 8点                                      | 6点          | 0点            |              |
| (1) 背景とテーマ設定の適切性      | 当該研究に必要な情報を不足なく集め、適切に示している<br>課題が論理的に導かれている<br>先行研究との関連付けが論理的に行なわれている<br>研究意義を論理的かつ明確に表現している<br>仮説が論理的に構築され設定されている<br>課題が説得力をもって説明されている<br>実現可能性が説得力をもって説明されている<br>獨創性、獨自性(自ら課題を発見したか)、学術的意義が高い<br>社会的発展性が高い<br>科学的発展性が高い<br>社会的有用性が高い | 学位論文として優れている               | 学位論文として概ね適正である                | やや曖昧さが認められる。改善の余地がある。                   | 大幅な改善が必要である | 不適切であり、評価できない |              |
| (2) 方法の信頼性・適切性        | 理論が論理的に構築されている<br>条件設定が適切になされている<br>研究方法が適正に選択されている<br>必要十分な実験材料/実験技術/解析技術が用いられている<br>高度な実験技術/解析技術が用いられている<br>解析/分析対象に対して適切に実験されている<br>統計的処理が適切な方法で行われている  | 学位論文としてよく吟味され、かつ適切に実施されている | 学位論文として概ね適正に吟味され、概ね適切に実施されている | 計画、方法、解析のいずれかにおいて、やや不十分な部分がある。改善の余地がある。 | 大幅な改善が必要である | 不適切であり、評価できない |              |
| (3) 結果の論理性・明確性        | 結果が論理的に体系づけられている<br>考察と結論を導くのに十分な結果が得られている<br>実験データを不足なく適切に解析している<br>図表が効果的に作成されかつ提示されている  | 結果がよく吟味され、適切に提示されている       | 概ね適正に結果が吟味され、概ね適切に提示されている     | 結果の提示に、わかりにくさや不十分な部分がある。改善の余地がある。       | 大幅な改善が必要である | 不適切であり、評価できない |              |
| (4) 考察と結論の論理性・新規性・発展性 | 論理性が高く展開されている<br>諸結果との関連性が明確である<br>背景とテーマに帰結している<br>新規性、獨創性が高い<br>社会的発展性が高い<br>科学的発展性が高い<br>社会的有用性が高い<br>高度で幅広い専門知識を修得できている  | 学位論文として優れている               | 学位論文として概ね適正である                | やや不足が感じられる。改善の余地がある。                    | 大幅な改善が必要である | 不適切であり、評価できない |              |
| (5) 研究倫理の妥当性          | 研究に係る諸法規、諸規定等に基づき承認を受けている<br>剽窃などの研究不正が認められない<br>著作権上の問題が認められない<br>個人情報保護上の問題が認められない   |                            |                               |   |             |               | 適<br>・<br>不適 |
| (1)~(4)合計点            |  |                            |                               |   |             |               |              |

※1 審査委員全員で総合的に評価すること。 ※2 目安の点数を示している。評価は一点刻みで行うこと。

[博士學位論文評価基準表 A]

| 評価項目                  | 評価内容 (例) ※1   | 点数 ※2                      |                               |  |             | 評価            |
|-----------------------|---|----------------------------|-------------------------------|--|-------------|---------------|
|                       |   | 20点                        | 12点                           | 8点                                       | 6点          |               |
| (1) 背景とテーマ設定の適切性      | 当該研究に必要な情報を不足なく集め、適切に示している<br>課題が論理的に導かれている<br>先行研究との関連付けが論理的に行なわれている<br>研究意義を論理的かつ明確に表現している<br>仮説が論理的に構築され設定されている<br>課題が説得力をもって説明されている<br>実現可能性が説得力をもって説明されている<br>独創性、独自性 (自ら課題を発見したか)、学術的意義が高い<br>社会的発展性が高い<br>科学的発展性が高い<br>社会的有用性が高い | 学位論文として優れている               | 学位論文として概ね適正である                | やや曖昧さが認められる。改善の余地がある。                    | 大幅な改善が必要である | 不適切であり、評価できない |
| (2) 方法の信頼性・適切性        | 理論が論理的に構築されている<br>条件設定が適切になされている<br>研究方法が適正に選択されている<br>必要十分な実験材料/実験技術/解析技術が用いられている<br>高度な実験技術/解析技術が用いられている<br>解析/分析対象に対して独自性を持って適切に実験されている<br>統計的処理が適切に方法で行われている  | 学位論文としてよく吟味され、かつ適切に実施されている | 学位論文として概ね適正に吟味され、概ね適切に実施されている | 計画、方法、解析のいずれかに おいて、やや不十分な部分がある。改善の余地がある。 | 大幅な改善が必要である | 不適切であり、評価できない |
| (3) 結果の論理性・明確性        | 結果が論理的かつ独創的に体系づけられている<br>考察と結論を導くのに十分な結果が得られている<br>実験データを不足なく適切に解析している<br>図表が効果的に作成されかつ提示されている  | 結果がよく吟味され、適切に提示されている       | 概ね適正に結果が吟味され、概ね適切に提示されている     | 結果の提示に、わかりにくさや不十分な部分がある。改善の余地がある。        | 大幅な改善が必要である | 不適切であり、評価できない |
| (4) 考察と結論の論理性・新規性・発展性 | 論理性が高く展開されている<br>諸結果との関連性が明確かつ独自の視点で示されている<br>背景とテーマに帰結している<br>新規性、独創性が高い<br>社会的発展性が高い<br>科学的発展性が高い<br>社会的有用性が高い<br>高度な専門知識を修得できている   | 学位論文として優れている               | 学位論文として概ね適正である                | やや不足が感じられる。改善の余地がある。                     | 大幅な改善が必要である | 不適切であり、評価できない |
| (5) 研究倫理の妥当性          | 研究に係る諸法規・諸規定等に基づき承認を受けている<br>剽窃などの研究不正が認められない<br>著作権上の問題が認められない<br>個人情報保護上の問題が認められない  |                            |                               |  |             | 適<br>・<br>不適  |
| (1)~(4)合計点            |   |                            |                               |  |             |               |

※1 審査委員全員で総合的に評価すること。 ※2 目安の点数を示している。評価は一点刻みで行うこと。

## (2) 修士学位論文審査を受けるための条件

本研究科における修士学位論文審査を申請するにあたり、「大学院システム工学研究科修士学位論文審査に係る申し合わせ事項」に定めるとおり、事前に下記のいずれかの条件（発表予定も含む）を満たす必要があります。

- ① 国内外での学術雑誌（査読付き論文）、あるいは学術雑誌・紀要等（査読無し論文）への発表（投稿中も含む）。
- ② 国内外における学会（研究会を含む）での登壇発表やポスター発表（発表申込中も含む）。
- ③ その他・学外コンテストへの応募作品や受賞。

### 院生サミット

近畿大学大学院では、毎年各研究科が持ち回りでサイエンスネットワーク・院生サミットを開催しています。院生サミットでの発表は、上記に定める修士学位論文審査を受けるための条件となる**②学会（研究会を含む）での発表に該当**します。システム工学研究科の院生も毎年多く登壇しておりますので、積極的に発表を申し込みしてください。詳細が決定次第、KDU Mobile で案内します。

※令和8年度は東大阪キャンパスでの開催が予定されています。

## (3) APRIN e-ラーニングプログラム (CITI Japan)

研究倫理に関する知識及び技術を身につけて研究活動の不正行為に対する対応を理解できるようになることを目的とし、研究倫理教育プログラム（APRIN e ラーニング教材：CITI Japan）の受講を必須としています。受講期間等の詳細は、KDU Mobile で案内します。

## (4) iThenticate（学術論文剽窃検知オンラインツール）の導入

近畿大学大学院では、博士論文の質保証を担保することを目的に、博士論文の作成及び博士論文にかかわる学術論文の作成における剽窃・盗用などの不正行為を事前に防止するシステム環境を導入し整備しています。

<https://www.kindai.ac.jp/graduate/ithenticate/>



## 8. 学識を教授するために必要な能力を培うための機会（フレFD）【博士後期課程】

近畿大学大学院では、博士課程（4年制）及び博士後期課程の学生を対象とした学識を教授する（大学教員等の教育者として活動する）ために必要な能力を培うための授業科目「大学の授業設計と実践方法」（選択科目）を開講しています。主に大学教員として授業を担当する予定あるいは希望を持つ博士後期課程の学生の受講を推奨します。

## 9. 大学院学長賞・大学院部長賞・システム工学研究科長賞

近畿大学大学院では、在学中に研究、学業ならびに人格ともに優秀で他の模範となり、特に顕著な研究成果を挙げたものには学長賞、研究科の発展に寄与する業績を挙げたものには大学院部長賞、研究及び学業が優秀で、他の模範とする者にはシステム工学研究科長賞を授与しています。

表彰を受ける基準は以下のとおりです。

**【授与基準】（近畿大学大学院学長賞・大学院部長賞内規、システム工学研究科表彰規程より抜粋）**

### 大学院学長賞

大学院学長賞は、特に優れた研究成果を挙げ、優秀な学業成績を収めるとともに、学位論文を提出した者の中から選考する。学位論文の研究成果が特に優れていることを重視し、関連した研究成果の学術雑誌への掲載、学会での発表等を中心に選考する。

大学院学長賞は、原則として、修士課程及び博士前期課程においては、全研究科から1名、博士課程及び博士後期課程においては、医学研究科から1名、医学研究科を除くその他の研究科から1名とする。ただし、該当者がいない場合はこの限りでない。

### 大学院部長賞

大学院部長賞は、本学大学院の発展に寄与する業績を挙げ、優秀な学業成績を収めるとともに、学位論文を提出した者の中から選考する。本学大学院の発展に対する寄与を重視し、日本学術振興会の特別研究員や各種財団等による大学院生向け公募制の研究助成等への採用、特許・実用新案等の出願又は取得等を中心に選考する。

大学院部長賞は、原則として、修士課程及び博士前期課程においては、各研究科から1名とし、修了予定者が50名以上の場合2名まで、修了予定者が100名以上の場合3名まで、修了予定者が150名以上の場合4名まで、修了予定者が200名以上の場合5名までとする。ただし、該当者がいない場合はこの限りでない。博士課程及び博士後期課程においては、各研究科から1名とする。ただし、該当者がいない場合はこの限りでない。

### システム工学研究科長賞

システム工学研究科長賞は、研究業績や学業において優れた成果を挙げた学生を、十分な根拠に基づいて選出する。研究業績については、論文数や発表回数といった数量的な要素のみに依拠することなく、研究の質や本人の貢献度を総合的に評価する。また、本学大学院の知名度の向上に貢献する等、大学院発展に寄与した活動も評価の対象とする。

システム工学研究科長賞は、原則として、博士前期課程においては各コースそれぞれ1名とする。ただし、修了予定者が20名以上のコースにおいては2名までとする。また、博士後期課程においては1名とする。ただし、該当者がいない場合はこの限りではない。また、同一年度において大学院学長賞または大学院部長賞の受賞者には授与しないものとする。

## 10. 近畿大学大学院と広島大学大学院の学生交流（研究指導及び単位互換）

平成 22 年 12 月、近畿大学と広島大学は「大学間交流に関する包括協定」を結び、また、平成 24 年 3 月には近畿大学大学院システム工学研究科と広島大学大学院工学研究科（現：先進理工系科学研究科）は「学生交流（研究指導・単位互換）に関する協定」を結びました。

これにより、両大学院研究科は相互に大学院生を派遣し、研究指導を受けること、そして授業科目の履修および単位の修得をすることができるようになりました。ともに受講料は原則として無料です。ただし、演習・実習などで特別に要する費用については、その実費相当額が必要となる場合もあります。

具体的には、近畿大学大学院システム工学研究科の大学院生は広島大学大学院先進理工系科学研究科が開設している特定の授業科目を特別聴講学生として受講することができます。また、教育研究上の必要性により広島大学大学院先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻内の特定のプログラムで特別研究学生として研究指導を受けることもできます。

希望者は指導教員まで相談してください。

### 【研究指導委託（特別研究学生）を開始できるプログラム】

（先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻）

化学工学プログラム、応用化学プログラム、電気システム制御プログラム、機械工学プログラム、  
輸送・環境システムプログラム、建築学プログラム、社会基盤環境工学プログラム、情報科学プログラム、  
スマートイノベーションプログラム

## 11. システム工学研究科と（国研）産業技術総合研究所との連携大学院

平成 26 年 4 月、近畿大学大学院システム工学研究科と国立研究開発法人産業技術総合研究所は「連携大学院協定」を締結しました。これにより、産総研中国センター内の材料・化学領域 機能化学研究部門の研究グループで研究活動を行うことができます。

希望者は指導教員まで相談してください。

## 12. 教育職員免許状（中学校・高等学校専修）の資格取得

中学校・高等学校教諭一種免許状をすでに取得している者が、本学大学院博士前期課程（修士課程）において各教科免許状の科目対応表に記載された授業科目から 24 単位以上を修得し、修了と同時に免許状の授与申請をすれば、中学校・高等学校教諭専修免許状を取得することができます。

取得希望者は、前期授業開始前までに教務学生グループ大学院担当にご相談ください。

### 【取得可能な教科】

- ・中学校教諭専修免許状（理科） ・高等学校教諭専修免許状（理科）
- ・中学校教諭専修免許状（技術） ・高等学校教諭専修免許状（工業）
- ・高等学校教諭専修免許状（情報） ※科目対応表は KDU Mobile に掲示します。

### 1 3 . 近畿大学大学院生として修得すべき英語力

近畿大学大学院では、国際化が進む社会で活躍できる技術者の育成を目指しています。

大学院生は、学部生にも増して、海外で研究発表する機会が多くなります。国際的な会議や学会には世界各国から優秀な技術者や研究者が多数参加します。欧米諸国だけでなく新興国など様々な国の人とコミュニケーションできる能力が重要になります。そのため、「国際言語」としての「英語」を身につける必要性がますます高まっています。グローバル化する社会で自身の様々なスキルを発揮するためにも、大学院生のうちに英語によるコミュニケーション能力を高めておくことが大切です。

大学院生としてまずは TOEIC L & R のスコア 600 点を目指してください。国際社会で活躍するためには、さらに高いスコアが必要になります。近畿大学の海外語学研修や留学制度も積極的に活用し、英語力の向上を目指してください。

#### ◆留学プログラムについて◆

<https://www.kindai.ac.jp/international-exchange/abroad-program/>



#### ●大学院生に受講してほしい英語講座・プログラム

学習支援室（C館202）では様々な講座・プログラムを実施しています。

詳細については、学習支援室で確認してください。

##### 【TOEIC L & R・S & W 対策講座】

スコアアップを目指す TOEIC L & R・S & W 対策講座を通常は週 1 回程度行っています。

また、夏期・春期休暇中に集中的に行うこともあります。

##### 【English Shower プログラム】（毎週 月・水・木・金 12:00～17:00）

英語を使ったコミュニケーションが自然にできるよう、普段から練習しておくといでしょう。

English Shower プログラムを利用し native speaker(s)との会話に親しむことで、英語力向上につながります。海外で開催される学会に参加し、発表する際にも非常に役に立ちます。日ごろから英語に触れるように心がけましょう。オンラインでの参加が可能な場合もあります。

※TOEIC L & R・S & W 受験の申し込み方法等、詳細については「一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会」のホームページをご覧ください。

<https://www.iibc-global.org/index.html>



## 1 4. 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取り扱い

気象警報及び台風・地震等により交通機関が運行停止となった場合の授業の取扱いについては、学内規程「気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱いについて」に基づき次のとおりとします。

特別警報が発表された場合、該当地域は非常に危険な状況にあります。特別警報発表地域にいる学生は、各自ただちに命を守る行動をとってください。特別警報の種類は問いません。また自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、自身の判断により、命を守るために最善と思われる行動をとってください。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。

1 気象警報による休講は、「特別警報」「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」のいずれかが広島県南部の東広島・竹原地区に発表されたときとする。また、授業時間中に「特別警報」「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」のいずれかが発表されたときは、授業を中止して休講とする。なお、「大雨警報」及び「洪水警報」が発表されたときは、状況に応じて休講とする場合がある。

メディア授業（同時双方向型）の場合も同様の扱いとする。

メディア授業（オンデマンド型）についてはこの措置を適用しない。

2 交通機関による休講は、JR 山陽本線（広島～三原間）が台風・地震等による災害やストライキ等のために運行停止になったときとする。なお、当該交通機関での事故等による一時的な運行停止は対象としない。また、メディア授業の場合も対象としない。

ただし「1.気象警報による休講」の措置を実施する場合はこれを優先する。

3 気象警報及び交通機関の運行停止による休講措置は、警報が解除又は運行が再開された時刻により、次のとおりとする。ただし、特別警報が発表されている場合は解除時刻にかかわらず終日休講とする。

(1) 午前 6 時まで解除・運転開始（再開）されたときは、平常どおり授業を行う。

(2) 午前 10 時まで解除・運転開始（再開）されたときは、3 時限目から授業を行う。

(3) 午前 10 時を過ぎて解除・運転開始（再開）されないときは、全時限休講とする。

ただし、交通機関の運行停止のみの場合に限り、対面授業をメディア授業（同時双方向型）に切り替えて実施することがある。

4 特定の地域に避難指示が発表された場合及び自然災害等により通学することが困難な場合は、速やかに教務学生グループに申し出ること。

5 上記以外に、地震等の災害を含め特別な事態が生じた場合、授業を短縮又は休講とすることがある。

6 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う休講措置等を実施する場合は、KDU Mobile にて通知を行う。

■ 近畿大学工学部ホームページ（上記休講措置の関連ページ）

<https://www.kindai.ac.jp/engineering/campus-life/precaution/weather-warning/>



## 15. 経済的支援（奨学金・教育ローン）

経済的な理由で修学の道が閉ざされることがないように、様々な種類の奨学金・教育ローンがあります。  
奨学金の貸与を希望される方は、「奨学金申込要項2026」（学生部で配布）を熟読のうえ所定の期日に申し込んでください。

| <b>1</b><br><b>日</b><br><b>本</b><br><b>学</b><br><b>生</b><br><b>支</b><br><b>援</b><br><b>機</b><br><b>構</b><br><br><b>（</b><br><b>定</b><br><b>期</b><br><b>採</b><br><b>用</b><br><b>）</b>  | <p>日本学生支援機構（JASSO）の奨学金は、国が実施する貸与型の奨学金制度です。</p> <p><b>資格基準</b></p> <p>《人物》<br/>高度の研究能力を有し、経済的理由により、修学に困難があると認められる人。</p> <p>《学力》<br/>修士・博士前期課程<br/>大学等ならびに大学院における成績が特に優れ、将来、研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を備えて活動することができると認められること。</p> <p>博士後期課程及び博士課程<br/>大学等ならびに大学院における成績が特に優れ、将来、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力を備えて活動することができると認められること。</p>  |  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|---|--|--|----------|------------|--|------------------------|-------------------------|--------------------|-------------------------|--------|--------------------|-------|-------|-----|---------|-------|-------|--------|--------------------|-------|-------|----------------------|---------|-------|-------|--------|--|--------------------|-------|-------|
|   | <p><b>収入所得の上限額の目安</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>課 程</th> <th>給与所得者の場合</th> <th>給与所得者以外の場合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">第一種<br/>授業料後払い制度</td> <td>修 士 課 程</td> <td rowspan="2">299万円</td> <td rowspan="2">197万円</td> </tr> <tr> <td>博士前期課程</td> </tr> <tr> <td>博士後期課程<br/>医・薬学博士課程</td> <td>340万円</td> <td>223万円</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">第二種</td> <td>修 士 課 程</td> <td rowspan="2">536万円</td> <td rowspan="2">364万円</td> </tr> <tr> <td>博士前期課程</td> </tr> <tr> <td>博士後期課程<br/>医・薬学博士課程</td> <td>718万円</td> <td>503万円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">併用<br/>[第一種・第二種 同時貸与]</td> <td>修 士 課 程</td> <td rowspan="2">284万円</td> <td rowspan="2">188万円</td> </tr> <tr> <td>博士前期課程</td> </tr> <tr> <td></td> <td>博士後期課程<br/>医・薬学博士課程</td> <td>299万円</td> <td>197万円</td> </tr> </tbody> </table> |  | 課 程      | 給与所得者の場合   | 給与所得者以外の場合   | 第一種<br>授業料後払い制度        | 修 士 課 程                 | 299万円              | 197万円                   | 博士前期課程 | 博士後期課程<br>医・薬学博士課程 | 340万円 | 223万円 | 第二種 | 修 士 課 程 | 536万円 | 364万円 | 博士前期課程 | 博士後期課程<br>医・薬学博士課程 | 718万円 | 503万円 | 併用<br>[第一種・第二種 同時貸与] | 修 士 課 程 | 284万円 | 188万円 | 博士前期課程 |  | 博士後期課程<br>医・薬学博士課程 | 299万円 | 197万円 |
|   |  | 課 程  | 給与所得者の場合 | 給与所得者以外の場合 |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   | 第一種<br>授業料後払い制度  | 修 士 課 程  | 299万円    | 197万円      |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   |  | 博士前期課程   |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   |  | 博士後期課程<br>医・薬学博士課程   | 340万円    | 223万円      |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   | 第二種  | 修 士 課 程  | 536万円    | 364万円      |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   |  | 博士前期課程   |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   |  | 博士後期課程<br>医・薬学博士課程   | 718万円    | 503万円      |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   | 併用<br>[第一種・第二種 同時貸与]   | 修 士 課 程  | 284万円    | 188万円      |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| 博士前期課程  |  |  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   | 博士後期課程<br>医・薬学博士課程   | 299万円  | 197万円    |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| <p><b>貸与期間</b> 貸与期間は、採用時から各課程の最短修業の最後までとします。</p> <p><b>申込期間</b> 4月上旬</p> <p><b>貸与月額</b> 令和7年度採用者用</p>   |  |  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>第一種<br/>貸 与<br/>(無利子)<br/><b>選択型</b></th> <th>課 程</th> <th>貸与月額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>修 士 課 程</td> <td rowspan="2">50,000円 または<br/>88,000円</td> </tr> <tr> <td>博士前期課程</td> </tr> <tr> <td>博士後期課程<br/>医・薬学博士課程</td> <td>80,000円 または<br/>122,000円</td> </tr> </tbody> </table>   | 第一種<br>貸 与<br>(無利子)<br><b>選択型</b>  | 課 程  | 貸与月額     |            | 修 士 課 程  | 50,000円 または<br>88,000円 | 博士前期課程                  | 博士後期課程<br>医・薬学博士課程 | 80,000円 または<br>122,000円 |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| 第一種<br>貸 与<br>(無利子)<br><b>選択型</b>   | 課 程  | 貸与月額   |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   | 修 士 課 程  | 50,000円 または<br>88,000円   |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   | 博士前期課程   |  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   | 博士後期課程<br>医・薬学博士課程   | 80,000円 または<br>122,000円  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| <table border="1"> <tbody> <tr> <td>第二種<br/>貸 与<br/>(有利子)<br/><b>選択型</b></td> <td>希望する奨学金の月額を次の中から選べます。<br/>50,000円・80,000円・100,000円・<br/>130,000円・150,000円（貸与途中で月額<br/>を変更することもできます）</td> </tr> </tbody> </table>  | 第二種<br>貸 与<br>(有利子)<br><b>選択型</b>  | 希望する奨学金の月額を次の中から選べます。<br>50,000円・80,000円・100,000円・<br>130,000円・150,000円（貸与途中で月額<br>を変更することもできます） |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| 第二種<br>貸 与<br>(有利子)<br><b>選択型</b>   | 希望する奨学金の月額を次の中から選べます。<br>50,000円・80,000円・100,000円・<br>130,000円・150,000円（貸与途中で月額<br>を変更することもできます）   |  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| <p><b>授業料後払い制度の貸与額（一種併用不可）</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">奨学金の内訳</th> <th>大学院の課程の区分</th> </tr> <tr> <th>修士課程相当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業料支援金</td> <td>私立：最大 776,000円<br/>（1年間の額。この額を「支援対象授業料」といい、学校が金額を決定します。）に、<br/>保証料相当額を加えた額<br/>※申込者は支援対象授業料の額を選択することはできません。支援対象授業料の額は、<br/>学校が課している授業料の状況（納付済みの授業料や授業料減免等）によって変動する<br/>ことがあります。</td> </tr> <tr> <td>生活費奨学金</td> <td>月額0円（利用しない）、2万円、4万円から選択</td> </tr> </tbody> </table> | 奨学金の内訳   | 大学院の課程の区分  | 修士課程相当   | 授業料支援金     | 私立：最大 776,000円<br>（1年間の額。この額を「支援対象授業料」といい、学校が金額を決定します。）に、<br>保証料相当額を加えた額<br>※申込者は支援対象授業料の額を選択することはできません。支援対象授業料の額は、<br>学校が課している授業料の状況（納付済みの授業料や授業料減免等）によって変動する<br>ことがあります。 | 生活費奨学金                 | 月額0円（利用しない）、2万円、4万円から選択 |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| 奨学金の内訳  |  | 大学院の課程の区分  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
|   | 修士課程相当   |  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| 授業料支援金  | 私立：最大 776,000円<br>（1年間の額。この額を「支援対象授業料」といい、学校が金額を決定します。）に、<br>保証料相当額を加えた額<br>※申込者は支援対象授業料の額を選択することはできません。支援対象授業料の額は、<br>学校が課している授業料の状況（納付済みの授業料や授業料減免等）によって変動する<br>ことがあります。   |  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| 生活費奨学金  | 月額0円（利用しない）、2万円、4万円から選択  |  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| <p>授業料後払い制度は、授業料に充てるために授業料が生じる時期に応じて貸与される「授業料支援金」と、生活費に充てるために毎月貸与される「生活費奨学金」で構成されています。なお、「生活費奨学金」のみの申込みはできません。<br/>授業料後払い制度は、修士課程相当でのみ利用できます。そのため、一貫制博士課程の場合、前期課程でのみ利用できます。</p>   |  |  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |
| <p>○奨学金の貸与に当たっては、連帯保証人や保証人を選任する「人的保証制度」か、一定の保証料を支払い保証を受ける「機関保証制度」を選択しなければなりません。</p> <p>○その他、家計急変世帯を対象とした、緊急採用・応急採用制度があります。<br/>奨学金の詳細は次をご参照ください。<br/>独立行政法人 日本学生支援機構ホームページ <a href="https://www.jasso.go.jp/">https://www.jasso.go.jp/</a><br/>※「特に優れた業績による返還免除」制度について<br/>大学院において第一種奨学金の貸与を受けた学生であって、在学中に特に優れた業績を挙げた者として日本学生支援機構が認定した場合には、貸与期間終了時に奨学金の全部または一部の返還が免除される制度です。貸与終了年度の12月ごろに募集し</p>  |  |  |          |            |  |                        |                         |                    |                         |        |                    |       |       |     |         |       |       |        |                    |       |       |                      |         |       |       |        |  |                    |       |       |

|                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| <p>2<br/>近畿大学奨学金<br/>(貸与)</p>     | <p>大学独自の貸与型奨学金で年額（一年分）を一括して貸与します。<br/>貸与された奨学金は卒業後に返還します。</p> <p><b>申込資格</b><br/>・本学の定める家計基準を超えない人。<br/>・人物・学業ともに優秀でありながら、経済的理由により修学が困難な人。</p> <p><b>貸与金額</b><br/>年額 600,000円（無利息）</p> <p><b>貸与期間</b><br/>申込年度限りです。（毎年申込可能）</p> <p><b>申込期間</b><br/>4月上旬<br/>※採用手続時に連帯保証人2名が必要です。<br/>※その他、家計急変世帯を対象とした「応急奨学金」、災害に遭われた世帯を対象とした「災害特別奨学金」があります。奨学金の詳細は次をご参照ください。<br/>近畿大学ホームページ <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/</a></p> <p><b>交付時期</b><br/>7月下旬（全キャンパス・一括振込）</p>                                       |
| <p>3<br/>世耕弘一奨学金<br/>(給付)</p>     | <p>大学独自の給付型奨学金で年額（一年分）を一括して給付します。<br/>返還の義務はありません。</p> <p><b>申込資格</b><br/>・本学の定める家計基準を超えない人。<br/>・他の給付奨学金を受給していない者、もしくは特待生制度等で学費の減免制度の適用を受けていない者。</p> <p><b>給付金額</b><br/>年額 300,000円（一括給付）<br/>申込年度限りです。（毎年申込可能）</p> <p><b>申込時期</b><br/>6月（全キャンパス）<br/>※詳細は各キャンパスで配布する募集要項をご覧ください。</p> <p><b>給付時期</b><br/>9月末（全キャンパス）</p>   |
| <p>4<br/>地方公共<br/>奨学金・<br/>英団</p> | <p>地方公共団体・民間育英団体については、ホームページや奨学金専用掲示板で周知します。<br/>募集期間は、おおむね2月～4月となっています。<br/>これ以外に各都道府県が独自に募集を行う場合もあります。独自で募集を行っている奨学団体については各自が直接奨学団体等に問い合わせください。</p>   |
| <p>5<br/>その他<br/>の教育<br/>ローン</p>  | <p>・<b>提携ローン「オリコ学費サポートプラン」</b><br/>近畿大学が株式会社オリエントコーポレーション（通称オリコ）とローン提携したもので、学費等をオリコが立替払いして大学に納付し、利用者はオリコに分割返済することで一時的な負担を軽減することができます。<br/>※オリコ学費サポートプランの詳細は次を参照<br/>近畿大学ホームページ <a href="https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/">https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/</a></p> <p>・<b>国の教育ローン（日本政策金融公庫の教育ローン）</b><br/>取扱い、ご相談は最寄りの日本政策金融公庫、銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協で受け付けています。<br/>（利率：令和7年1月現在で年2.65%「交通遺児家庭、母子家庭、父子家庭、世帯年収200万円（所得132万円）以内の方または子ども3人以上※の世帯かつ世帯年収500万円（所得356万円）以内の方は上記利率の▲0.4%（国定金利）<br/>※お申込みいただく方の世帯で扶養しているお子様の人数をいいます。年齢、就学の有無を問いません。</p> |

## 役職教員一覧

| 役職名           |            | 職位 | 氏名     | 研究室  |
|---------------|------------|----|--------|------|
| 大学院システム工学研究科長 |            | 教授 | 崎野 良比呂 | E112 |
| 博士後期課程        | システム工学専攻主任 | 教授 | 廿日出 好  | D125 |
| 博士前期課程        | 生物化学コース長   | 教授 | 松鹿 昭則  | D206 |
|               | 機械工学コース長   | 教授 | 亀田 孝嗣  | G312 |
|               | ロボティクスコース長 | 教授 | 白井 敦   | D247 |
|               | 電子情報工学コース長 | 教授 | 廿日出 好  | D125 |
|               | 情報コース長     | 教授 | 古川 亮   | G362 |
|               | 建築コース長     | 教授 | 松本 慎也  | E101 |

令和8年4月1日現在

## 大学院に関する情報閲覧のご案内

### 近畿大学の沿革（歴史・年表）

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/corporation/history/>



### 近畿大学大学院学則

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations.html>



### 近畿大学 Kindai WebSyllabus

<https://syllabus.itp.kindai.ac.jp/customer/Form/sy01000.aspx>



### 学位論文審査に関する手引きについて

<https://www.kindai.ac.jp/graduate/review/>



### ファイナンシャル・プランについて

<https://www.kindai.ac.jp/graduate/plan/>



### ハラスメント防止のためのガイドライン

ハラスメント防止のためのガイドラインや相談窓口はこちらからご確認ください。

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/harassment-measures/>





## システム工学研究科 履修要項 2026

2026.4 印刷発行

発行者 近畿大学大学院 システム工学研究科  
編集 近畿大学大学院 システム工学研究科教務委員会

所在地 〒739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺 1 番  
電話番号 (082) 434 - 7006

---

 近畿大学大学院

---